

株式会社アドバンテスト
2012年度 第1四半期決算概要

2012年7月26日
取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

業績概要

ADVANTEST.

(単位: 億円)

	2011年度				2012年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	実績	1Q	
						前期比 (%)	前年同期比 (%)
受注高	384	276	259	343	462	+34.5	+20.1
売上高	268	377	307	458	334	-27.3	+24.2
売上原価	137	205	173	208	158	-24.1	+14.8
売上総利益	131	172	134	250	176	-30.0	+34.2
営業利益	8	-31	-30	61	8	-87.7	-3.6
営業外収支	-4	-20	-4	-14	5	-	-
税引前純利益	4	-51	-34	47	13	-73.0	+231.7
当期純利益	3	-48	-32	55	4	-92.4	+22.4
受注残	412	400	352	236	364	+54.3	-11.6

2

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/7/26

○ 2012年度第1四半期の業績概要

- 受注高 462億円 前期比 34.5%増
スマートフォンやタブレット端末に搭載されるアプリケーション・プロセッサ (AP)、ベースバンド・プロセッサ (BB) 向けで非メモリ・テストの引き合いが伸びた
- 売上高 334億円 前期比 27.3%減
MPU向け大型商談の一巡などによるもの

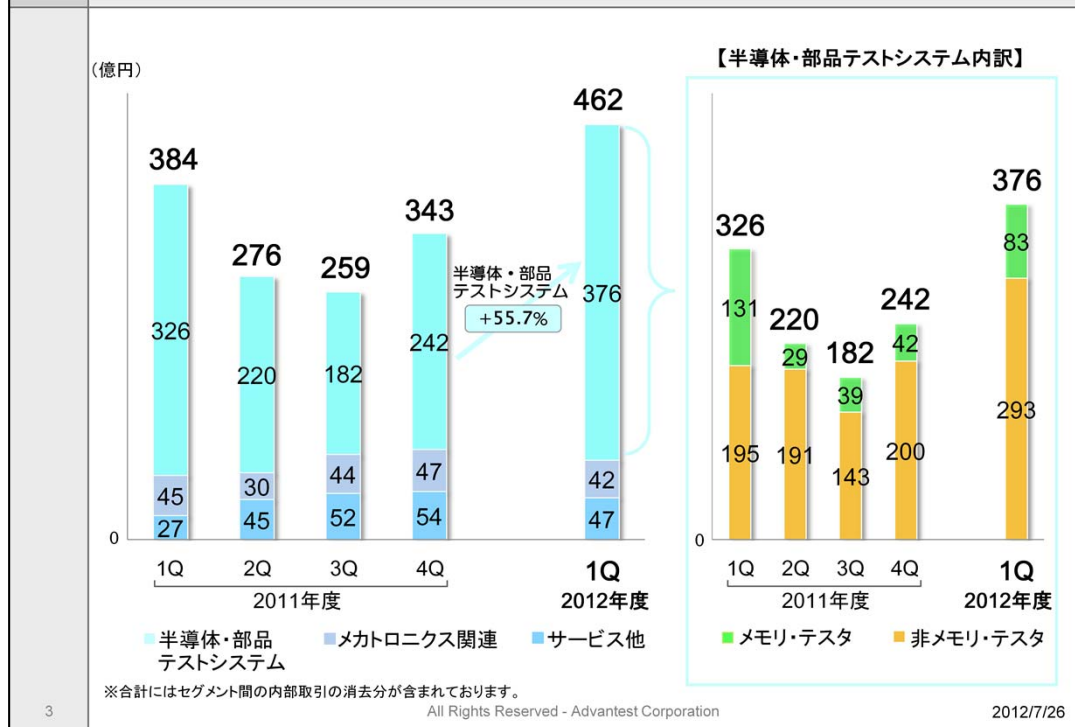
また、

- 営業利益 8億円
- 税引前純利益 13億円
- 当期純利益 4億円

○ 受注残は364億円

受注高 事業セグメント別

ADVANTEST



○ 2012年度第1四半期の事業セグメント別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業
 ・前期比55.7%増 376億円

(主な増加要因)

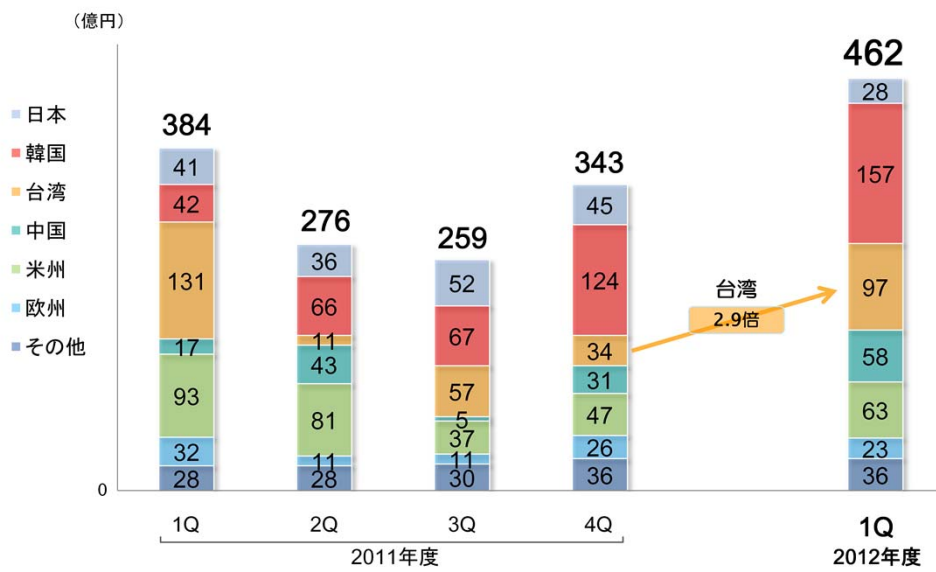
- ・非メモリ・テスト
 - ・BB向けやAP向けで「V93000」受注が増加
- ・メモリ・テスト
 - ・モバイルDRAM、NANDフラッシュメモリ向けが増加

○ メカトロニクス関連事業
 ・前期比12.5%減 42億円

○ サービスその他事業
 ・前期比13.0%減 47億円

受注高 地域(出荷先)別

ADVANTEST



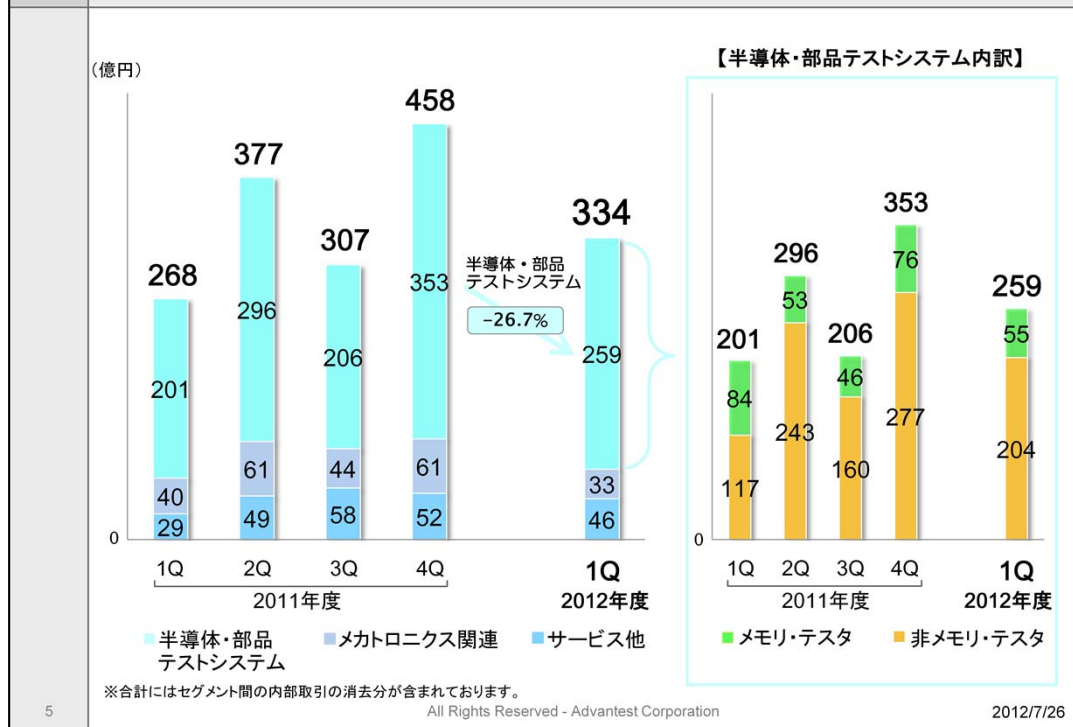
○ 2012年度第1四半期の地域別受注高

- 台湾
 - 前期比約2.9倍 97億円と大きく増加
「V93000」が中心

- 韓国、中国
 - モバイルDRAMとNANDフラッシュ向けが増加

売上高 事業セグメント別

ADVANTEST



○ 2012年度第1四半期の事業セグメント別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業
 ・前期比26.7%減 259億円

(主な減少要因)

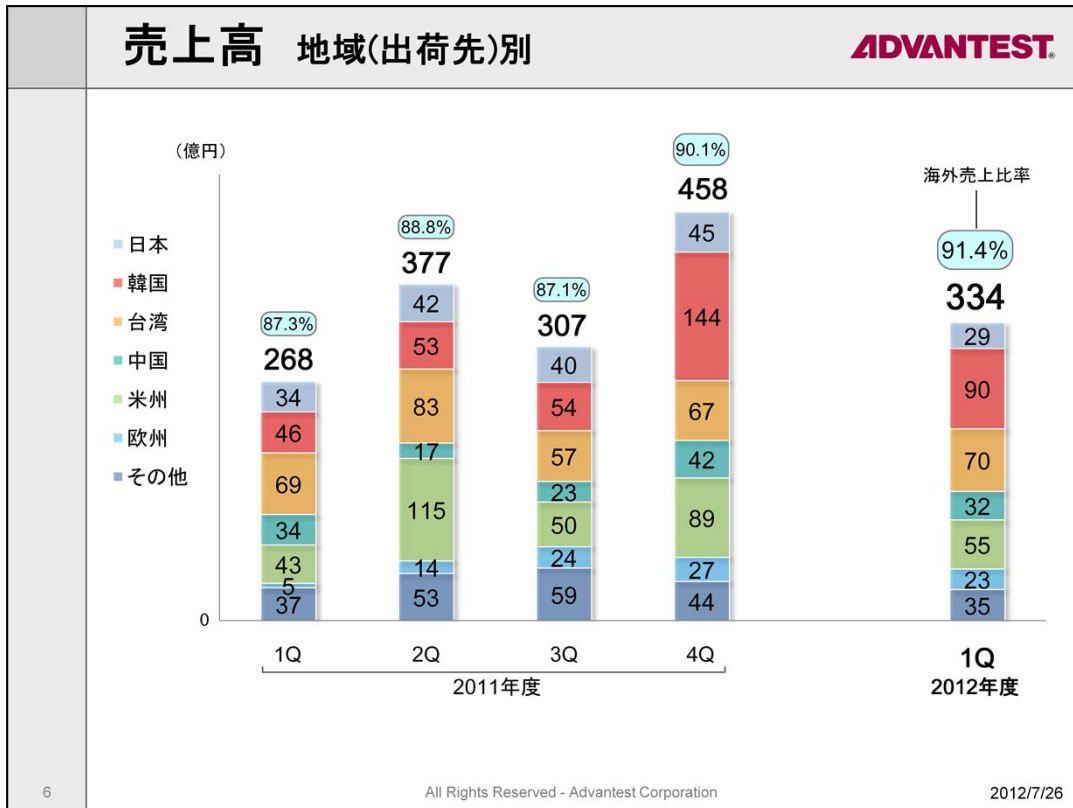
- ・非メモリ・テスト
- ・MPU向け「T2000」が減少

○ メカトロニクス関連事業
 ・前期比44.9%減 33億円

(主な減少要因)

- ・テスト・ハンドラ
- ・前年度に受けた大型商談一巡のため

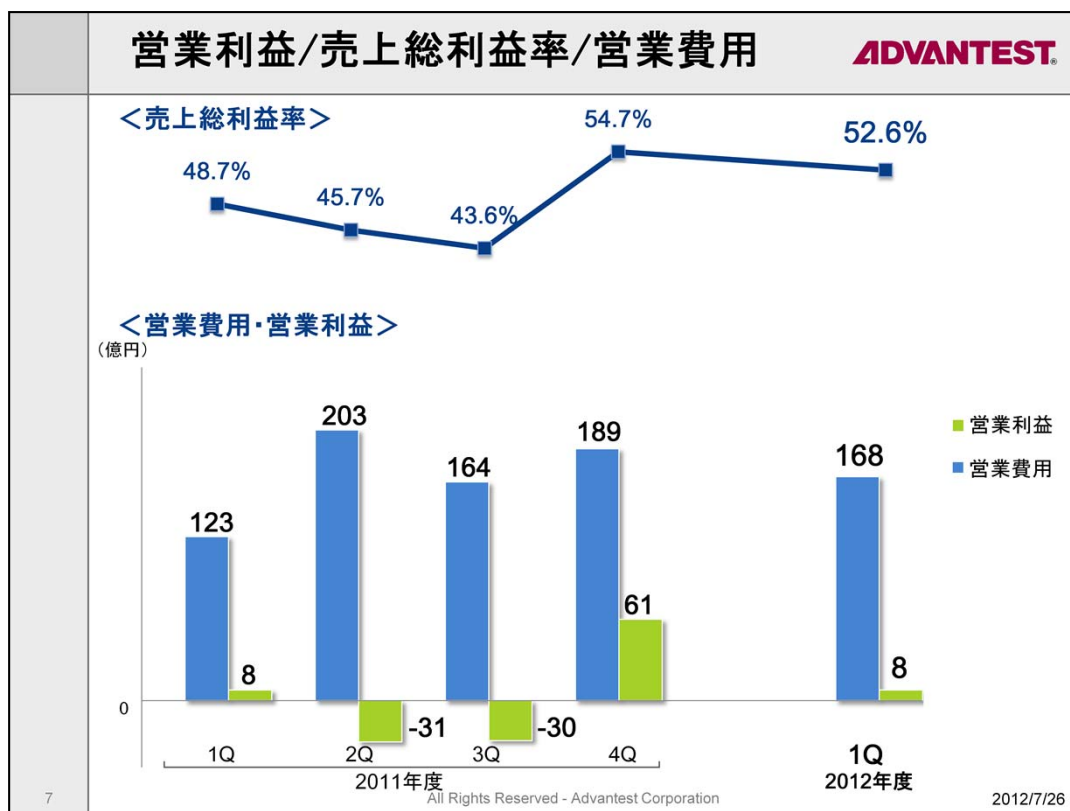
○ サービスその他事業
 ・前期比11.3%減 46億円



○ 2012年度第1四半期の地域別売上高

- 韓国
 - AP向け「T2000」が減少

- 米国
 - MPU向け「T2000」が大型商談一巡のため減少



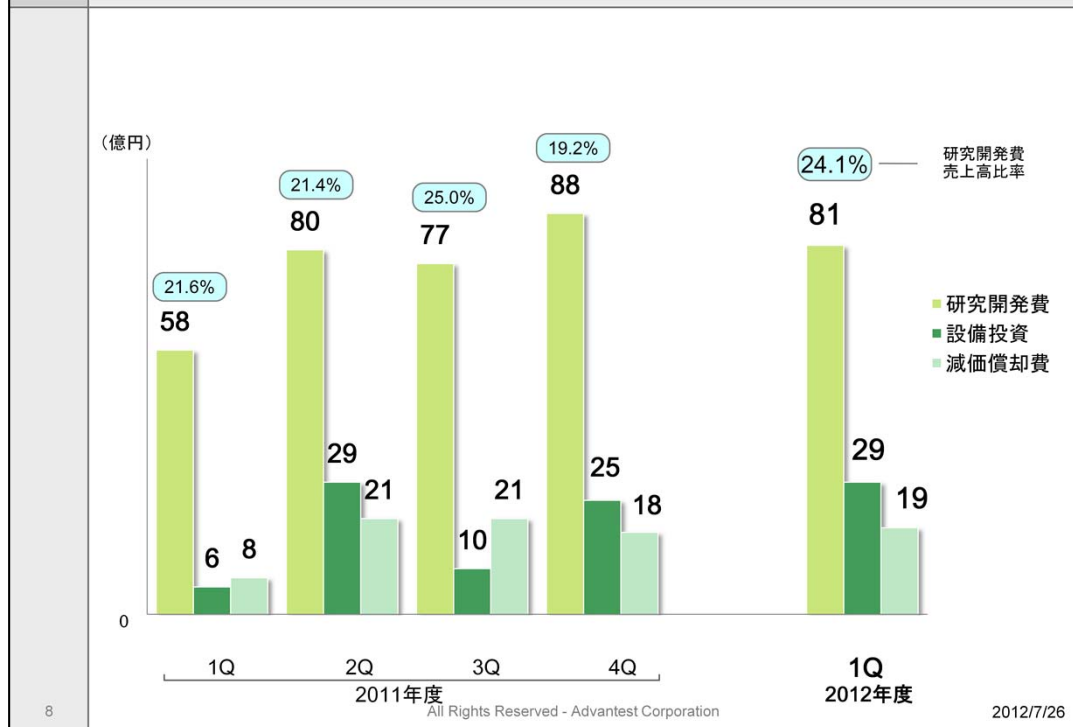
○ 2012年度第1四半期の営業利益について

○ 2012年度第1四半期は

- 売上総利益率 52.6%
- 営業費用 168億円
- 営業利益 8億円

研究開発費/設備投資/減価償却費

ADVANTEST

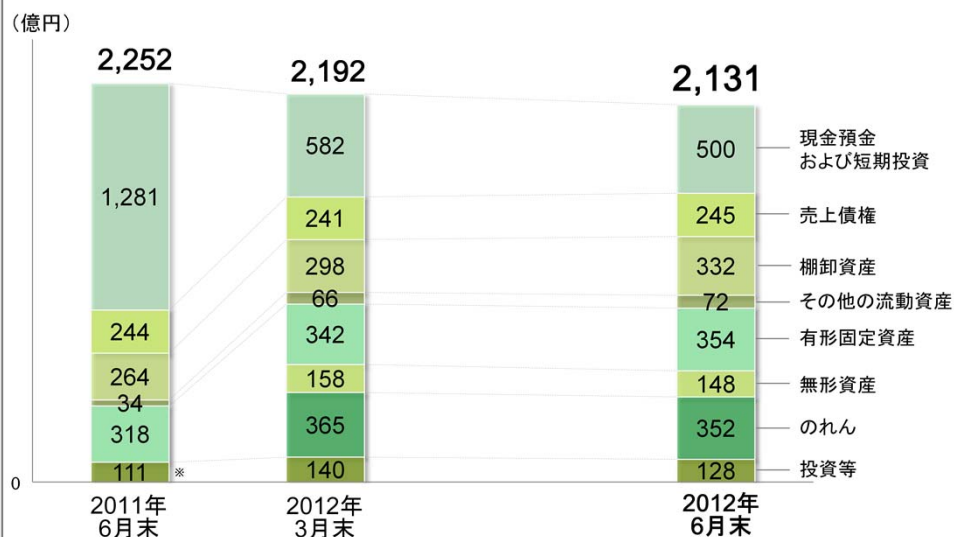


○ 続いて2012年度第1四半期の営業費用の内訳

- 研究開発費 81億円
- 設備投資 29億円
- 減価償却費 19億円

バランス・シート <資産の部>

ADVANTEST



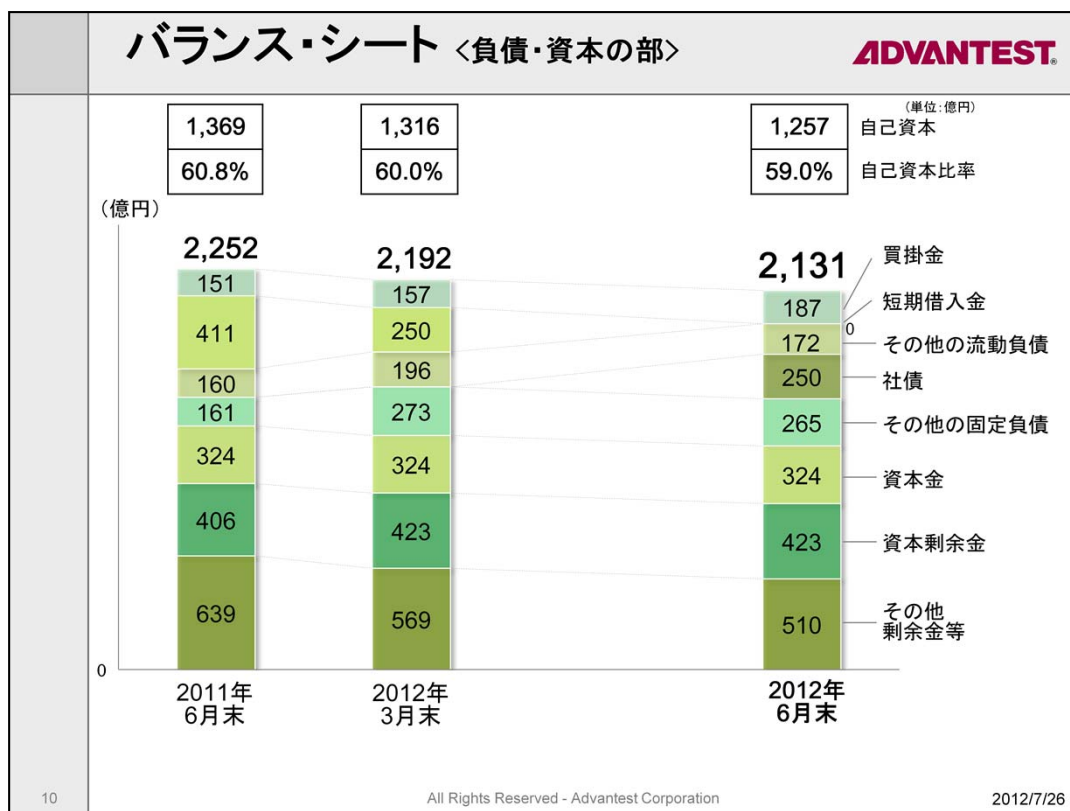
※2011年6月末時点データより以前は、有形固定資産を除いた固定資産の合計を「投資等」として表現しております

9

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2012/7/26

- 2012年6月末時点のバランス・シート
- 資産の部
 - ・現金預金および短期投資
2012年3月末比 82億円減 500億円
 - ・棚卸資産
2012年3月末比 34億円増 332億円
- これらの結果、総資産は、
2012年3月末比 61億円減 2,131億円



○ 負債・資本の部

- 社債 250億円
総額250億の社債を発行、それに伴いこれまであった短期借入金を全額返済
- 自己資本 1,257億円
- 自己資本比率は
2012年3月末から1ポイント減 59.0%

2012年度第1四半期 事業アップデート
“スマホ・タブレット・Ultrabookが牽引”
～V93000四半期受注高 新記録樹立～

2012年7月26日
代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

2012年度業績予想

ADVANTEST

(単位: 億円)	2012年度 第1四半期 (実績)	2012年度 上期 (予想)	2012年度 通期 (予想)
受注高	462	750 ~ 800	1,520 ~ 1,780
売上高	334	720 ~ 770	1,500 ~ 1,700
営業利益	8	30 ~ 60	120 ~ 200

◆上期見通し

V93000が上期全体に好調、全体を牽引

◆下期見通し

第3四半期の動きは若干不透明だが、
年明けから新規設備投資の再拡大を見込む

- まず、第1四半期のレビューと今期の業績見通しについて
- 第1四半期は、4月時点の想定を大きく上回る受注を獲得。
そのドライバーはモバイル機器関連の需要。
V93000が過去最高の四半期受注高を達成した
- 第1四半期受注の中には、第2四半期に受注を予想していた商談も
含まれるが、先行きへの見通しに変更はない
- 第1四半期の結果を受けて、2012年度上期の業績予想を
次のとおりとする
 - ・受注高 750億円~800億円
 - ・売上高 720億円~770億円
 - ・営業利益 30億円~60億円
- 2012年度下期については、最終製品の需要動向が
若干不透明なため、第3四半期のテスト需要動向もやや不透明。
ただし、大手顧客が新会計年度を迎える第4四半期は、
再びテスト需要が高まるとみている。
- オリンピックの年、V93000以外でも、
どんどん新記録や金メダルを増やしていきたい

◆半導体市場は成長軌道を維持

- ハイエンド/ローエンドスマートフォンの堅調な成長
- Windows8のリリースを絡めた
タブレット型端末、Ultrabook市場のさらなる活性化

⇒業界随一の顧客基盤と製品ポートフォリオで
成長機会を広範に獲得



○ 事業環境の展望について

- 半導体市場を牽引しているスマートフォンは、今後ローエンド品も台頭しながら、堅調な市場成長を遂げると予想される
- また、タブレット端末やUltrabookについても、タブレット端末間の市場競争や、Windows8のリリースがあいまって、機器性能を向上させつつ、今後ますます伸びていくと期待される
- それらモバイル機器の成長が半導体市場の堅調な成長をもたらす
- その中であって、当社製品はメモリ向け・非メモリ向け問わずあらゆる優良顧客で採用されている。そのため、成長機会を広範に、確実に捉えられるポジションにある

◆モバイル機器がテスト需要を継続的に牽引

四半期では顧客別に投資強弱があるが、
テストキャパシティ増強ニーズのもと
通期ではどの品種も堅調に推移すると期待

		上期	下期
非メモリ	MPU / AP (Hi-end Digital)		
	Baseband / RF (SoC)		
	LCDdr / CIS / PMIC		
メモリ	DRAM		
	NANDフラッシュ		

○ 今年度の製品動向の見通しについて

○ モバイル機器の性能向上や市場拡大を背景とした
各半導体メーカーのキャパシティ増強の動きは引き続き旺盛。
四半期毎には顧客別に投資の強弱はあるが、
通期で見れば、全体的に成長するとみている。

○ 非メモリ・テストでは、

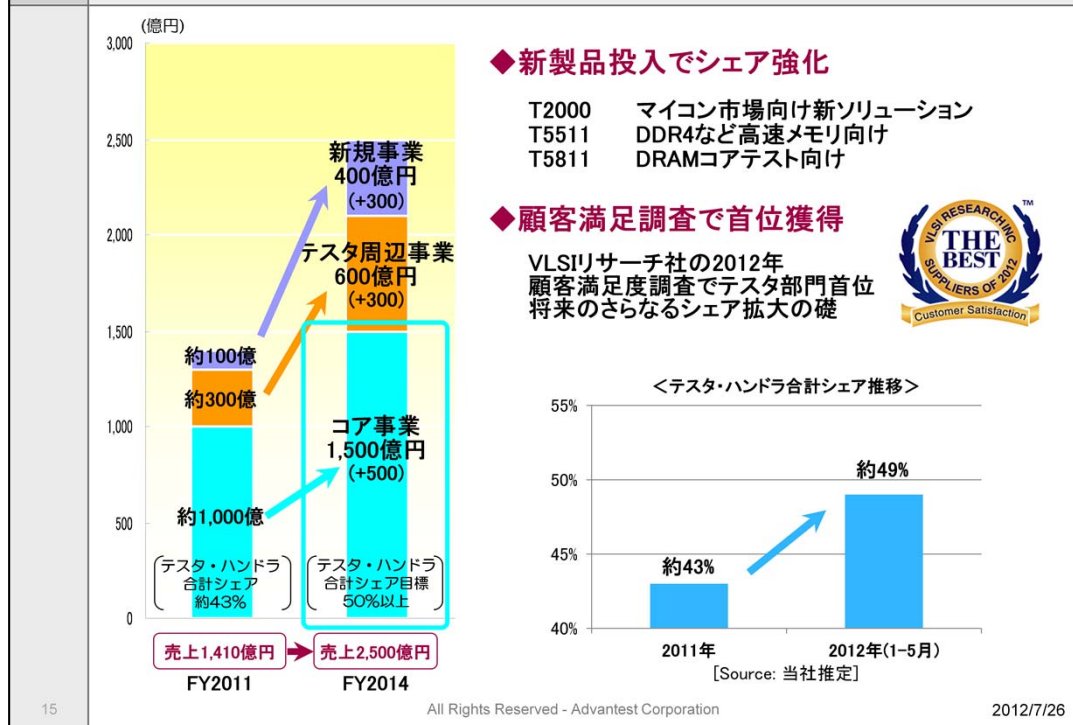
- ・ MPU、AP向けは下期に引合い拡大を見込む
- ・ ベースバンドなど通信系のデバイス向けは、上期が非常に強いが、
下期も一定の需要が見込める
- ・ それ以外のデバイス向けは、下期にCMOSイメージセンサに
期待しているが、通期ではなだらかな成長と予想

○ メモリ・テストでは、

- ・ DRAMテストは、通期でゆるやかに回復していくものと思われる。
- ・ NANDフラッシュ向けテストについては、当社製品を採用している
顧客の投資意欲が強く、こちらも堅調に推移すると思われる

中期目標:コア事業競争力強化

ADVANTEST.

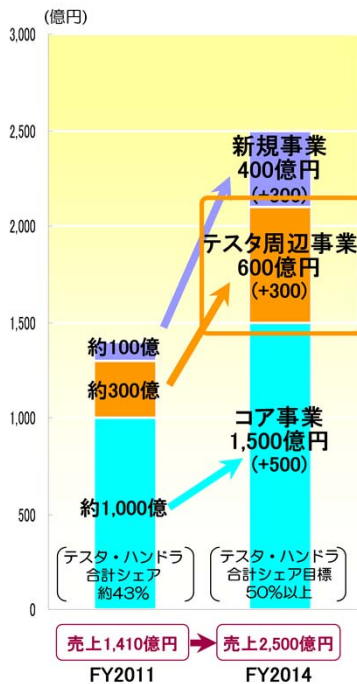


○ 続けて、中期経営目標の進捗を個別に紹介したい

- まず、コア事業と位置づけているテスト、ハンドラについて
- 将来のシェア維持向上のため、市場をリードする製品を投入し続けるという方針は、Verigy社統合後も変化はない。この第1四半期も、複数の市場に新製品を投入
- また、Verigyとの統合はスムーズに進んでいる。経営統合から1年目の顧客満足度調査で、当社はさらに順位を上げることができ、テスト部門で首位。順調な滑り出しを果たした
- 統合後に、さらに厚い信頼を顧客から獲得できたということは、今後のシェアをさらに伸ばすための大きな基盤となると考える
- なお、1月から5月までのテスト・ハンドラ合計シェアは、昨年末から6ポイントアップの、約49%と推定。今後さらにシェア強化に努め、2014年の達成目標として掲げた「テスト・ハンドラ合計シェア50%以上」を達成したい

中期目標: テスタ周辺事業増収

ADVANTEST



◆プローブカード本格展開

韓国、台湾、米州の顧客へ販促活動開始
好感触を得ている

◆韓国に新工場建設（天安市）

2013年1月の操業開始を予定
テスト・ハンドラ、デバイス・インタフェースの
世界中核工場へ

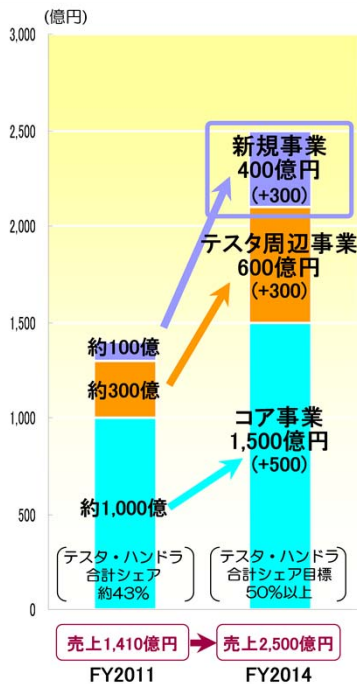


○ 次にテスト周辺事業の展開について

- 売上高600億円を目指すテスト周辺事業については、
プローブカードが成長ドライバーのひとつ。
これまで、韓国、台湾、米州の顧客で販促中だが
複数顧客から好感触を得ている
- また韓国・天安に建設中の新工場は、
ハンドラ、デバイス・インタフェースの
世界展開の一翼を担う予定。
6月に起工式を行い、すでに着工済み。
来年1月の操業を目指している

中期目標:新規事業の拡大

ADVANTEST



◆CloudTesting™ Service

テスタ市場を深耕する、全く新たなサービス。

教育機関や半導体メーカー R&D部門がターゲット。国内から順次、サービス提供開始



◆テラヘルツ波関連製品

製剤向けに「TAS7500」初受注、および米国・プリンストンに医薬品ビジネス基盤となる新オフィスをオープン

○ 最後に新規事業拡大の進捗について

- 多角的に、将来の成長に向けた事業基盤の整備を行っている。
主なものの第1四半期までの進捗を紹介したい
- この秋からサービス開始予定のクラウド・テスト・サービスは、教育現場や研究開発向けのテスタ・ニーズを掘り起こし、新しい市場を開拓するもの。
既に多数引合いが来ており、今後に期待している
- 先行スタートしていたテラヘルツ波関連製品では、4月から販売開始の医薬・製剤業界向け「TAS7500」が、初受注獲得。
またこの医薬向けの事業については、展開を加速するため、医薬品メーカーが多く拠点を構えるアメリカ東海岸に新オフィスをオープン
- 以上のように、テスト周辺事業や新規事業など、将来の成長基盤の強化をさまざま図りつつ、中期の経営目標達成につなげていく予定

ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。